

世界連邦 Newsletter

2018年 3月28日
第646号



発行所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央マンション 303
電話 (03) 6438-9442 F A X (03) 6438-9443
E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan
URL: <http://www.wfmjapan.org/>
郵便振替 00190-6-29964
1部100円 (年6回 奇数月1回28日発行)

文部科学省後援 第46回全国小中学生ポスター・作文コンクール 優秀作品展・表彰式



第46回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展が2月14日から2月27日まで、東京・市ヶ谷のJICA地球ひろば2階ギャラリー

スペースで開催された。文部科学省、世界連邦宣言自治体全国協議会が後援。

表彰式は、2月18日、TKP市ヶ谷カンファレンスホール3Bで行われ、入選した児童、生徒、父母や親族など約80名が全国から出席。中野寛成会長代行(元衆議院副議長)が文部科学大臣賞状と副賞(トロフィー)、及び海部俊樹会長賞状と副賞(特賞:楯、湯川スミ賞:ブロンズ、入賞:楯、佳作:メダル)を授与した。今年はポスターが75校1,313点、作文は33校682点の応募があった。

当日は快晴に恵まれ、受賞した生徒たちの誇らしげな表情であふれた。21世紀フォーラムを中心としたスタッフの方々のおかげで、表彰式は無事終了した。



ポスターの部 文部科学大臣賞
富士宮市立大宮小学校 6年
東 瑛徳さん



第46回世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール表彰式
TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて

作文の部・文部科学大臣賞 「世界から戦争をなくすには」

武蔵野市立第一小学校 2年 岡田 結也

ぼくは、一年生の春休みに、ニューヨークの国連の見学に行きました。国連のたて物の前には百九十三ヶ国の国旗がならんでいました。国連は戦争がなくなるように、国と国が話し合いをするところだそうです。世界が平和になるように百九十三のたくさんの国が話し合いにさんかしているのはすごいことだと思いました。

国連の中には今まで世界でおこった戦争で使われたぶきがたくさんおいてありました。

その中でいんしょうにのこったのは地雷です。国連の人が、地雷は何円で作れるでしょうと問題を出してくれました。ぼくは百万円くらいかなと思いました。でも正かいは三百円でした。アイスクリーム三十分くらいで作れるなんてそんなに安いのかとびっくりしました。三百円で作れるなら三百円でとりのぞけろと思ったけど、とりのぞくには一万五千元かかるそうです。作るのはかん単なのに、とりのぞ

くのは高いし、しっばいしたらぼくはつして死んでしまうし、むずかしいことが分かりました。今までへいたいさんはかっこいいと思っていたけど、戦争はたくさんの人が死んでしまうからこわいと思いました。

国と国が話し合ってやさしい気持ちでいっばいになれば戦争がなくなると思います。あと戦争をしてしまった国が、戦争はひどいことしかおこらないということをほかの国に教えてあげること大切だと思いました。平和になるには自分のことだけではなく、あい手のことを考えてあげれば戦争ははじまらないと思うし、命を大切にすることができると思います。

国連は大切なしごとをしているけれど、世界のみんながやさしくなると戦争がなくなれば、いつか国連がひつようなくなる平和の世界になったらいいなと思いました。

作文の部・特賞 「当たり前ではない平和」

富士宮市立第一中学校 2年 寺田 進太郎

僕は、夏休みに家族で広島平和記念資料館を訪れた。そこには、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料がたくさん展示されていた。思わず目を背けたくなるようなものもあったけれど、僕はじつくりと見てきた。見たものの全部を目に焼きつけるつもりで…。

一九四五年、八月六日、午前八時十五分。広島に世界で始めて原子爆弾が落とされた。

まちはほとんどが破壊され、多くの人々の生命がうばわれた。かろうじて生き残った人も、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者が今なお苦しんでいる。資料館に展示されていたものは、僕の想像をはるかに超えていた。被爆前の広島は、多くの人にぎわっていて、まちが活気づいていた。しかし、左から右へと歩きながら写真をみていると、そこには被爆後の広島があった。人はだれもいない。建物もない。ただ焼け野原が広がっているだけだった。被爆前と比べると、とても同じ広島には見えなかった。たった一つの原子爆弾で、一瞬にして全てが失われてしまったと思うと、ぞっとした。原爆のおそろしさを改めて感じた。

人々も変わり果てた。熱線で皮膚が焼けた人、ガラスの破片や建物の柱が体に突き刺さっている人、水を求めてあてもなく歩き続ける人…。その中には、僕と同じ中学生もふくまれている。生きて

いれば、どれほど日本の力となったか、どれほど楽しい人生があったのかと思うと、胸が苦しくなった。人々の全てをうばった原爆が、本当に憎いと思った。

平和公園にいたあるおじいさんが、僕達家族に話しかけてきた。平和公園には、平和の鐘がある。それにまつわる問題を課題してくれた。「この鐘に描かれている世界地図には、普通の世界地図と決定的に違うところがある。それは何か分かるかな？」僕は気づいた。この世界地図には国境線がない。それが問題の答えだった。国境があると、国と国に境目ができ、世界は一つにならず、平和な世界はつくれな。平和の鐘に描かれている世界地図は、その国境線をなくし、国と国の境目をなくすことで、みんなで一つになって、平和な世界をつくろう、戦争をなくそう、ということを訴えている。核兵器のない平和な社会を実現しようという、広島の強い願いが伝わってくるものだった。

僕は、家族で呉のてつのくじら館も訪れた。呉は、海上自衛隊との関わりが深い。戦後、戦争の影響で、海には機雷が山ほど沈んでいた。機雷は、接触あるいは接近すると爆発する、危ない兵器だ。

海上自衛隊は、機雷を除去して海の安全を守る掃海活動を行うようになった。掃海艇の活躍だ。沈んでいるとはいっても、機雷はいつ爆破されるか分からない。危険ととなり合わせの作業だ。ペルシャ湾で

の掃海活動は、本当に大変だったと思う。命がけで掃海し、戦後の日本の復興を支えた海上自衛隊。平和を守ってくれた彼らには心から感謝しなければならない。

僕は今、学校に登校して、勉強をして、おいしいご飯を食べて、部活をやったり、友達と楽しく遊んだりして、ベッドで安心して眠る、平和な毎日を送っている。普通のことだと思うかもしれないけれど、これは当たり前のことではない。日本は、約七十年

前、戦争をしていた。そして敗れた。戦争によって、多くの人々の尊い命がうばわれた。人々の明るい未来は、戦争によって閉ざされた。

僕達は今、恵まれた環境の中にいる。だからこそ、戦争によって亡くなった人達の分まで、精一杯生きなくては行けない。これからは、平和の意味をかみしめながら、一日一日を大切に過ごして行こうと思う。

作文の部・湯川スミ賞 「平和」

武蔵野市立第六中学校 3年 鈴木 希彩

「平和」この言葉には重みがあると思う。しかしこのコンクールに応募するまでは、平和について深く考えたことはあまりなかった。辞書で平和と調べてみると、「戦争や紛争がなく、世の中が穏やかな状態にあること。」「心配やもめごとがなく穏やかなこと。」と書いてあった。世界では、未だに戦争や紛争が起きていて、明日生きていられるかもわからない人たちがたくさんいる。その一方で、日本では、戦争や紛争が起きていないにも関わらず、自ら「死」を選択する人もいる。このような世の中は本当の平和とは言えないと思った。では、どうすれば平和な世の中になるのか。私たちが平和を実現するためにできることは、二つあると思う。

一つ目は、過去と向き合うことだ。学校の社会科の授業で学ぶことも一つの方法だ。他にも自分が住んでいる地域の戦争と平和についての歴史を調べる方法がある。私が住んでいる武蔵野市には、戦前、中島飛行機武蔵野製作所があった。この製作所では陸軍や海軍にむけての戦闘機が多く製造された。そのため、太平洋戦争末期の日本本土空襲の時には主要攻撃目標とされた。九回の爆撃で、二百名以上の人が亡くなったと言われている。武蔵野プレイスで配布されていた、「武蔵野から伝える戦争体験記録集」の「廃墟となった中島飛行機武蔵野製作所時計台」という写真には、とても驚いた。現在の姿からは想像できないほど荒れていて、悲しくなった。この跡地には、武蔵野市役所や武蔵野中央公園などがある。私もよく利用する武蔵野中央公園は子どもたちの平和な声で溢れている。このような場所で、何度も爆撃されたということを知って、「戦争を、とても身近に感じた。現在の世界では核保有国であるアメリカや北朝鮮など緊迫した情勢が続いている。過

去の戦争と向き合えば、多くの人々が亡くなり多くの憎しみが生まれる戦争に使われるかもしれない核を保有する考えにはならないと思った。

二つ目は、相手のことを理解し、思いやることだ。十六世紀や十七世紀に起きたカトリック・プロテスタントの対立や日本で起きた島原・天草一揆などは宗教上の考え方が異なったことにより起きたものだ。これらの争いは、自分の利益だけを考えるのではなく、相手の考えを理解し、尊重すれば起こらなかったと思う。これは私達にも通じると感じた。学校生活や日常生活の中で意見の異なる人たちとたくさん出会う。もちろん、そのような人たちと意見を交わし、議論することも私たちには必要だ。しかし、意見の異なる人に暴力を振るったり、仲間外れにしたりすることは許されない。そうならないためにも、人の出会いに感謝し、相手を尊重し、思いやる気持ちを持つことが大切だ。

私はこの作文を書いている中で、気づいたことがある。それは自分さえよければよいという考え方により、このような世の中になってしまっているということだ。つまり一人一人が優しさを持つことができれば、平和な世の中に近づくと思う。

確かに一人の力で世界平和を実現することは難しいと思う。しかし、誰か一人が優しさと思いやりを持って相手に接していけば、輪のようにそれが広がっていくと思う。その一人一人の優しさが積み重なれば、大きな力につながるはずだ。今、戦争を経験した方々が高齢となり減ってきている。その方々から戦争と平和への思いを受け継ぎ、優しさと相手への思いやりを忘れずに、より平和な世界を目指したいと思った。

*受賞作文を掲載するに当たり、編集方針に従って、一部修正を加えた箇所があります。

彬子女王ご臨席の下、世界連邦文化教育推進協議会 第四回全国推進大会開催

平成30年2月26日、世界連邦文化教育推進協議会第四回全国推進大会が、三笠宮家の彬子女王殿下のご臨席の光栄に浴しつつ、リーガロイヤルホテル京都で開催されました。

最初に副会長の和納 勉氏の開会の辞に続き、会長の東久邇信彦氏のご挨拶をされました。元皇族の東久邇会長は、世界連邦運動協会の前身、世界連邦建設同盟第二代会長を務めた東久邇宮稔彦元首相の直孫で、母方は昭和天皇の初孫にあたられます。東久邇会長は「世界連邦の運動は、ひとりひとりが世界の一員であることを自覚し、また文化と教育が世界平和の道標(みちしるべ)となることを再認識すべき」と話されました。続いて、世界連邦日本宗教委員会会長で神社本庁総長でもある田中恆清氏が登壇され「世界がひとつになって、世界秩序のもとに平和を築きあげるため、それぞれの組織がそれぞれに活動を続けていくことを考えていただきたい。世界連邦日本宗教委員会も、神道、仏教、キリスト教、イスラム教など、様々な宗教、宗派を超えて、日々協議を重ねている。文化教育推進協議会でも東久邇会長、宍野理事長の積極的な活動に期待する。」と述べられました。

続いて司会の方から、世界連邦日本国会委員会からの祝辞を兼ね、衆参両議院で世界連邦決議されたことが紹介されました。



その後、宮内庁賞典の堤 公長(つつみ きみなが)氏が「伝統文化と私」と題して基調講演をなさいました。氏は講演で伝統文化とご自身の関わりの経緯について概ね以下のように話されました。

「堤家は、藤原北家観修寺(かじゅうじ)流、観修寺十三家の一つ。平安時代初期、百人一首の歌人として知られる中納言、藤原兼輔が、鴨川の西側の堤に屋敷があったことから、堤中納言と言われるようになった。これが家名の由来。また兼輔のひ孫の紫式部は、この屋敷『堤第』で源氏物

語を書いたと言われている。しかし鎌倉時代末期に侍従、季隆で子孫が一時絶えてしまったので、江戸時代初期、兼輔のいここに当る最も親しかった三條右大臣定方の子孫が後水尾上皇の思召しによって家を再興した。したがって自分の祖先は平安遷都以来、一千年、京都で暮らした。戦後の日本は、新しいものを追い求めたが、最近になってようやく、伝統も見直されてきたように思う。自分がいきなり生まれて来たのではなく、親がおり、そのまた親がおり、その祖先がいる。自分が学んだ玉川学園では創立者の小原國芳先生(私たちはオヤジさんと呼んでいる)の理念である全人教育、そして古い文化にも根を下ろし、新しい文化を創造しなければならないなど、いろいろな言葉をよく思い出す。その後、父から『披講』をやることを勧められ、宮内庁式部職嘱託として、これをやることとなった。」

披講とは新しく和歌を詠み上げたのち節をつけてうたうことです。堤氏は現在「宮中歌会始披講会」の会長を務めておられるので、講演後、一時間以上にわたり、実演付きで「歌会における披講」について教えてくださいました。この「披講」をはじめ宮廷文化について詳しくお話を聴ける機会は少ないため、大変貴重なひとときでした。

講演後、本物の日本の伝統文化に触れる機会を提供することを目的とし設立された「心游舎」の文化基金チャリティーを兼ねた懇親会がなごやかに開催されました。この団体は、彬子女王が総裁をつとめ、田中恆清会長の神社界も力を入れておられます。

私はこの会を通じ、世界には各地に歴史の連続性に根差した文化があり、そこに住まう者にとって各自の文化はとても大切なものであるということを、改めて感じました。また、科学技術の発展やグローバル化が進む現代でも、各民族や各地域の人々が、お互いの文化の違いを否定することなく、寛容な精神を養うことこそ、世界連邦実現への第一歩であると、改めて考えさせられました。

(谷本 真邦)

ノーベル平和賞受賞団体 ICAN の事務局長招き 国会で討論集会

1月16日14時より衆議院第一議員会館の国際会議室において、核兵器廃絶日本NGO連絡会（世界連邦運動協会を含む、核廃絶を目指すNGO・市民により構成）の主催



により、討論集会「核兵器禁止条約と日本の役割」が開催された。昨年ノーベル平和賞を受賞したNGO団体（核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)）のベアトリス・フィン事務局長の来日を機に行われたものである。世界連邦運動協会も構成団体の一つとして、阿久根事務局長・谷本真邦執行理事・塩浜らが受付や国会議員の誘導などで運営に協力した。

国会閉会中であるにもかかわらず、10の政党・会派より代表・幹事長など幹部クラスが出席して発言、他にも多くの議員が参加した。また、約60名のマスコミ関係者が取材に訪れた。予想より多い参加に、途中で資料を追加印刷するという嬉しいハプニングも起こった。

フィン事務局長は、日本が唯一の戦争被爆国として核兵器禁止条約に参加することを強く希望した。また、北朝鮮の核開発を抑止できなかったことを例に、核抑止論は神話に過ぎないと述べ、市民の力への強い期待を表明した。さらに、日本政府が核兵器禁止条約に消極的であることは承知しているが、民主主義である以上、市民の力が物を言うのだから、多くの市民が声をあげて核兵器禁止条約への参加を求めるべきだ、と述べた。この主張に、市民の立場から参加した人々もうなずいていた。

(塩浜 修)

赤根智子氏の国際刑事裁判所裁判官就任を祝い、 国際機関に対する日本の人材面でのさらなる貢献に期待する

下記声明文を3月11日各メディアに送付した。

私たち世界連邦運動協会は、昨年12月4日に行われた国際刑事裁判所(ICC)裁判官選挙において赤根智子氏が当選し、3月11日より同氏が就任することを大いに歓迎する。

私たちは「世界法を通じての世界平和」をスローガンに、紛争を力ではなく、法によって解決する世界の実現を目指して活動してきた。2007年10月の国際刑事裁判所設立ローマ規程への日本の加入にあっても、多くのNGOの中で最も大きく貢献したと自負している。

赤根氏の就任は、齋賀富美子氏、尾崎久仁子氏に続き3人目である。加入後10年ほどの日本がICCに対し人材面でこれだけの貢献を行なっていることはまことに喜ばしい。

日本は多くの国際機関に対し、金銭面では大きな貢献をしている。ただし、いくつかの国際機関については、日本の国力を考えるならば、人材面において更なる貢献の余地が多々ある。

日本の場合、国際社会におけるキャリアが帰国後に十分に評価されず、キャリアアップにつながらないことが少なくない。この点、日本が多くの国際機関に人材面での更なる貢献をするために、外務省・JICA(国際協力機構)が引き続き何らかの対策を講じることを要望する。

2018年3月11日
世界連邦運動協会

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか。

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送かFAX、またはEメールにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央マンション 303

TEL 03-6438-9442 FAX 03-6438-9443 E-mail: info@wfmjapan.org

普通会員／年額 5,000 円 □維持会員／年額 10,000 円 □賛助会員／年額 15,000 円

われわれの目標は世界連邦の実現です。その実現は日本国民の誓いであり、日本政府の使命であることが、国会決議(衆議院 2005. 8. 2・参議院 2016. 5. 25)で決まりました。政府がこの決議に基づき、世界連邦実現事業に取り掛かることを求めるのが、私たちの当面、最優先の課題です(綱領参照)。

その課題の論議の一大難問が、世界完全軍縮の手順です。その焦点に軍縮過程の安全弁の構築があります。これについて名古屋支部の今井康博さんが「会員の声」として3回にわたって論述されています。その標題は「主権の一部(軍備の保有)を放棄した国の安全を保障する方法」となっています。

第1回(640号 2017. 3)は、世界に先駆けて日本が軍備を放棄した場合に、日本の安全を保障する実力組織として自衛隊を改組し、国際連合日本駐留部隊とする。その部隊の最高司令官は国連事務総長代行とし、任務は日本国の専守防衛と国連の平和維持活動と災害救助活動を行う。その活動に対して安保理五大国の拒否権発動はできないこととする、としています。

第2回(643号 2017. 9)と第3回(644号 2017. 11)では、幣原喜重郎の「戦争をなくするには武力の統一が絶対条件である。要するに世界平和は正しい世界政府への道以外に考えられない」に言及し、世界連邦が実現するまでの間、軍備を廃止しても侵略されることのないシステム(安全弁)を作ることが必要だ。そのために米国との連携をとる意見があるが、米国のイラク戦争やイスラエルを巡る中東政策を見ると、米国との同盟には必ずしも正義とは言えない戦争に参加させられる危険などがある。そこで同盟ではなく、保険方式の安全保障協定を米国と結ぶ案を考えた。今のところ、絶大な軍事力を持つ米国に安全保障の保険会社の役割を担ってもらい、日本をはじめ軍備を放棄する国は、その保険の加入者となる。武力攻撃をしようとする国があっても米国の軍事力で報復攻撃を受けるので、攻撃を思いとどまる。加入者の国は米国と協議して保険料を支払う。米国にとっても保険料収入で、軍事予算計上

が楽になり、圧倒的な軍事力を保持しやすくなるメリットがある。この保険で、軍備放棄の国が増えればやがて、世界連邦が実現する。

以上のような具体的考察と提案で、そのご努力には絶大な敬意を表し、そのアイデアから大いに学びたい。学ぶことの第一は、自発的に放棄する軍備と費用を、世界的に攻撃・侵略される恐れがなくなるまでの安全弁に役立てようとの発案である。学ぶことの第二は、米国軍事力が隔絶する力を持っているうちに、用心しながら、その力を活用して世界連邦実現にこぎつけようする知恵である。第一の点で私は、その軍備と費用を世界連邦防衛軍(仮称)として安全弁の任務が果たせるように手順を整え、世界連邦実現国会決議を持つ日本を手始めに、米国他有志国も含めて絶対抑止力にまで高め、世界連邦実現に至ると構想する。そこに米国の加担を不可欠の条件と考えることが第二点に学ぶ考察である。アメリカの国益の側からではなく、アメリカの名誉ある使命の側から説得することを考えてみたい。第一にアメリカは大陸的な広がりを持つ連邦国家の仕組みを成功させた国で、言わば世界連邦実現の第一の模範である。第二にアメリカはアインシュタインの世界連邦志向の発案やエメリー・リーブスの世界連邦理論を産み出した国である。第三に世界連邦憲法の草分けとなる「世界憲法シカゴ草案」を産み出した国である。第四に人種差別なき社会を目指して、ついに黒人大統領選出まで成し遂げた国である。これらの点は、人類の新秩序・世界連邦推進のリーダーたるにふさわしい栄誉と理想を十分に示しており、日本の誘いに応える可能性がある。

今井さんが提起されたこれらの世界連邦実現戦略について、会員の皆さんの活発な意見投稿をお願いしたい。また、理論政策委員会や執行理事会はその論議を進め、かつ、まとめて、その戦略案を公表し、世界連邦日本国会委員会とも十分に連絡し、その戦略に沿って日本政府が具体的に動き始めるように取り運んでいただきたい。

大阪愛善会支部で秋山豊寛氏講演会



第2回世界連邦講演会（世界連邦運動協会大阪愛善会支部主催）「自然と農と原発問題を考える」が3月3日、玉水記念館（大阪市北区）で開催され、約200人が参加した。

講演会は、松本達也世界連邦運動協会大阪愛善会支部長の開会あいさつにはじまり、日本人初の宇宙飛行士である秋山豊寛氏（京都造形芸術大学芸術学部教授）の宇宙での映像が上映された。続いて、「生命は核と共存できるのかー危機の時代を生き延びる知恵をどう生み出すかー」と題して秋山氏が講演。

秋山氏は、2011年3月11日の福島原発事故で被ばくしたことを告白し、「原子爆弾を生み出す実験に加わっていたアインシュタイン博士たちが、人間と核は共存できない、という自覚に立ち至って、世界連邦運動は始まった」と認識するとともに、自分も生命と核は共存できないと思っていると述べ、世界連邦運動への共感を示した。

活発な質疑応答の後、大阪愛善会支部事務局の小佐々明夫氏が閉会のあいさつを行なった。

（人類愛善会総本部 奥脇 俊臣）

豊中支部 新年会

1月8日ホテルアイボリーにおいて、65名の皆様にご参加頂き豊中支部新年会を開催いたしました。ご来賓20数名を代表して浅利敬一郎豊中市長・中野寛成世界連邦運動協会会長代行、大塚高司衆議院議員の奥様、八重樫善幸府議会議員、福岡正輝豊中市議会議長、大源文造豊中市教育長、水上英雄豊中商工会議所会頭よりご挨拶を賜りました。

豊中市は昭和58年に「非核平和都市」を宣言し、平成22年に核兵器廃絶に賛同する世界各国の都市で構成される「平和市長会議」に加盟しました。従っ

て豊中市の行政に携われる皆様は「平和で誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指して永年頑張ってきてくれました。

浅利市長はじめ皆様の挨拶には平和に対する強い思いがあり、あらためて平和の大切さを痛感させられました。豊中支部からは、出席の皆様へ核兵器廃絶国際署名運動への協力と、今後とも変わらないご支援ご協力をお願いして閉会いたしました。

（豊中支部支部長 星野 慎一）

本部と支部の主な動き

2月13日 京都・大阪府支部 香里スイートル学院小学校で出前平和授業 小学生 78名参加

2月26日 文化教育推進協議会第四回全国推進大会

3月3日 大阪愛善会支部 秋山豊寛氏講演会

3月17日 ピースウィレッジ世界がワクワクするまちづくり
講師：黒田哲二氏(UDS株式会社 戦略プロジェクト室 執行役員)

3月23日 平和を考えるフォーラム支部勉強会

3月24日 日本パグウォッシュ会議連続講座「北朝鮮の核の脅威とその対応」明治学院大学

5月26日 神戸平和祈願祭

7月9-13日 WFM 世界大会 オランダ・ハーグ

8月18日 第34回世界連邦日本大会 2018in 亀岡
（予定）基調講演講師：千玄室氏

国会委員会 4月に新体制で総会を予定

世界連邦日本国会委員会は2017年の解散総選挙時に谷垣禎一顧問、横路孝弘会長、大畠章宏事務総長など、多くの議員が勇退し、新体制の構築が必要となっていた。

伝統ある世界連邦日本国会委員会の活動を引き継ぐため、大畠章宏前事務総長が議員勇退後も何度も国会を訪れた結果、会長・事務総長など、新役員体制の骨子が固まった。

新会長(第17代)を快諾したのは、衛藤征士郎衆議院議員。副議長経験者であり、また、「国際連帯税創設を求める議員連盟」の会長でもある。

国際連帯税は世界連邦でも取り組んでいるテーマ

の一つ。今後両議員連盟の連携も期待できそうだ。

新事務総長は中川正春 元文部科学大臣。国際的なことに関心が高く、国連議員総会を求める署名活動でも早い段階で署名をしている。

他に伊吹文明 元衆議院議長を顧問に加えるなど、新体制で再スタートする。正式には4月に予定される総会を経ての就任となる。総会では役員人事、前年度活動報告・決算、本年度活動計画・予算などの議決の他、国連改革についての研修会も行われる予定である。

(塩浜 修)

2018年度定例総会招集告知

下記により世界連邦運動協会2018年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

日時:2018年5月13日(日) 午後1時～午後4時30分

場所:JICA地球ひろば セミナールーム 600 東京都新宿区市谷本村町 10-5

議題 ①2017年度会務報告に関する件 ②2017年度決算・監査報告に関する件
③2018年度運動方針・活動計画に関する件 ④2018年度予算に関する件
⑤理事・監事選出に関する件 ⑥支部提案 ⑦その他

〈注1〉 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがありますので、出席を希望される方は予め申し出下さい。

〈注2〉 支部提案のある支部は支部名、提案題、発表者名を4月27日までに事務局まで送付して下さい。説明を簡明にして、所要時間節減にお努め下さい。特に4月20日の執行理事会より前に提出いただけると、事前に執行理事会で話し合い、深く検討することが可能になります

〈注3〉 「JICA 地球ひろば」の最寄駅は市ヶ谷 地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

編集後記 ☆東日本大震災から7年が経ちました。被災された方々が心穏やかに過ごせることを祈ります。(阿久根) ☆世界連邦運動協会が日本パグウォッシュ会議に団体加盟することになった。両団体は創生期において湯川秀樹博士が大きく関わり、また、核兵器廃絶を長年にわたって訴えてきた点で共通する。今後両団体の連携に期待したい。(塩浜) ☆すでに国際社会が多極化している現在、一国の軍事力に過度に期待するのではなく、長所と短所を合わせ持つ各国の特徴をよくわきまえて世界連邦の実現に向けて働きかけるべきでしょう。(平口)

編集委員会/委員長:阿久根武志、副委員長:塩浜修・平口哲夫、委員:荻野忠則・横山成之